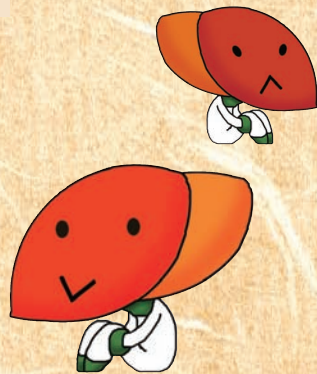


肝炎ウイルスに 感染していることが 分かったら



このパンフレットは、肝炎ウイルスへの感染が分かったあなたに、あなたの治療を応援するための情報をお知らせするものです。

まずは専門医に相談してみましよう。

そこで、本格的な治療が必要かどうかを判断します。

肝炎ウイルスに感染しても、ずっと症状が出ないまま終わるものもあり、すぐには治療が必要でない場合もあります。
また治療は、症状と体の状態に合わせて選びます。

<主な治療法>

①抗ウイルス療法

インターフェロンを使う治療と、抗ウイルス薬を使った治療があります。

- 1) インターフェロンは、免疫系・炎症の調節等に作用して効果を発揮する薬剤です。(詳しくは内面をご覧ください)
- 2) 抗ウイルス薬は、肝炎ウイルスの増殖を抑える薬剤です。

②肝庇護療法

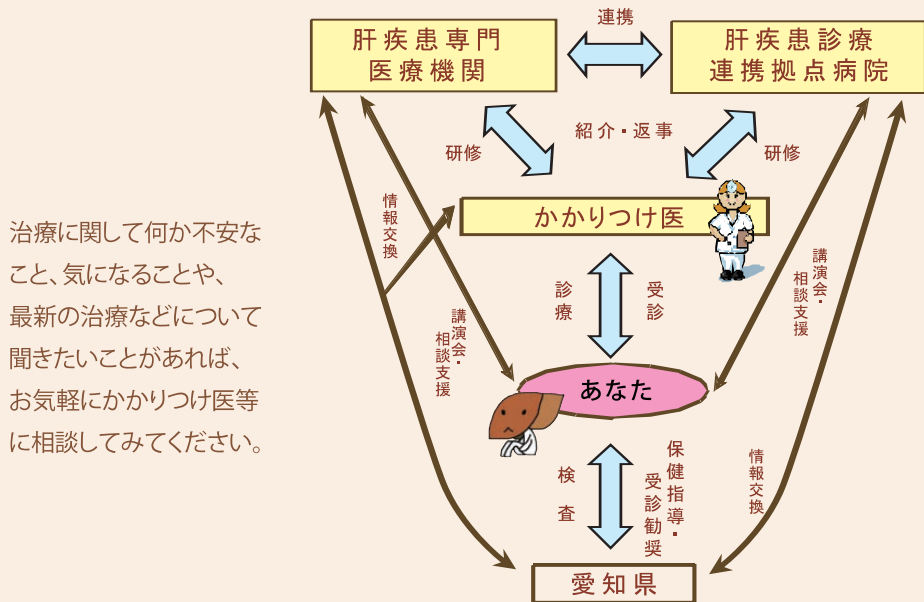
肝臓の炎症を抑え、肝細胞の破壊のスピードを抑える治療法です。

治療はどこで受ければ良いですか？

愛知県では、肝疾患診療連携拠点病院として名古屋市立大学病院を指定しており、ここを中心として、県内の肝疾患専門医療機関、そしてあなたのかかりつけ医と一緒に、あなたの治療を応援する体制を作っています。

※愛知県の肝疾患専門医療機関については、次のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.aichi.jp/0000014618.html>



<インターフェロン治療について>

○インターフェロンは免疫系・炎症の調節等に作用して効果を発揮する薬剤で、ウイルス性肝炎を根治することができるものです。

○ B型肝炎の場合 約3割

C型肝炎の場合 約5割～9割 の人が治療効果を期待できます。

※治療効果は遺伝子型やウイルス量などによって異なります。

○**強い副作用**を伴うことが多いので、かかりつけ医とよく相談してください。

主な副作用：インフルエンザ様症状（発熱、頭痛、筋肉痛など）、白血球・好中球減少、血小板減少、不眠や抑うつ、投与部位の痛み、脱毛、めまい